

この時期、教職員の危機意識が問われています！

～「いじめを見過ごさない」、「担任まかせにしない」を合言葉にチーム対応を！～

「いじめ」は、
どの学校どの子
どもにも起こり
うる！！

いじめ認知件数	小学校	中学校
岡山県	641件（1校：1.6人）	493件（1校：2.9人）
1000人あたりの件数	岡山県：6.8件	全国：16.4件

【6月の生徒指導事例から学ぶ】

事例 B中学校2年生6人によるいじめが疑われる事案が発生した。事案発生当日は、出張等により、2学年団の教員が少なかったことから2人の教員で加害の子どもを3人ずつに分け、集団で事情聴取を行った。6人の事実はどうも噛み合わないままであったが、学年団として、「何らかのいじめらしきことはあった」との判断をした。急遽、被害、加害の子どもと保護者を呼び、謝罪の場を設けた。しかしながら、保護者の質問に対して十分に答えることができず、その場は大きく紛糾することとなり、その後も未解決の状態が長く続くこととなった。

問題点と対応として考えられることは？

- ★事実確認が不十分 ⇒ 校内で応援を頼み、個別に一齐に聴き取るためのチームを編成する。情報を整理し、未確認な点や不明な点を明らかにする。必要に応じて、再度、聞き取りを行う。
- ★保護者を呼ぶ目的が不明確 ⇒ 該当学年だけでなく生徒指導主事及び管理職の把握のもと実施する。解決に向け、学校としての対応方針を明確にし、保護者への協力を仰ぐ。

- 児童生徒の気持ちに寄り添った観察や面談等により、児童生徒の学校生活への意欲、困り感、不適応状況などを把握していますか？気になることは日常的に学年団や生徒指導主事等に話していますか？
- QUや学校生活アンケート等から、いじめ（からかい、ひやかし）に関係した記載を見直し、要支援群の児童生徒の把握（生徒指導主事も把握する等）を行い、適切な支援や未然防止の取組ができていますか？